



Vol:8
2016年3月1日

千支・セト・ラ



辰

辰年の由来

◆辰の刻は午前 8 時を中心とする約 2 時間です。辰の方は東南東よりやや南寄り（南東微北：北基準右廻り 120°）の方角となります。

■「辰」の読みは「しん」。原字は「蜃」で、二枚貝が開き弾力性のある肉をピラピラと動かしている様を描いたもので「動いて伸びる」「整う」の意味とし、草木が盛んに成長し形が整った状態を表すと解釈されている。

3月の二十四節気「啓蟄」と「春分」について

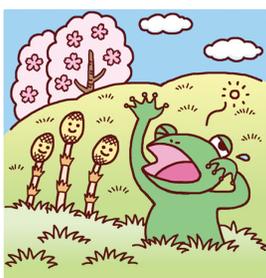
～二十四節気で見ると日本の気候について～

日本には「春・夏・秋・冬」皆さんが良く知る「四季」があり、その季節ごとに表情を変える島国です。しかし、日本には「二十四節気」という移り変わりがあることをご存知ですか？ 四季の中にさらに6つの季節の移り変わりを表現したものです。

3月には「啓蟄（けいちつ）」と「春分（しゅんぶん）」があります。

「啓蟄」と「春分」

啓蟄 3月5日頃～春分までの期間。啓は「ひらく」、蟄は「土中で冬ごもりしている虫」の意味で、大地が暖まり冬眠していた虫が、春の訪れを感じ、穴から出てくる頃で、菰（こも）はすしを啓蟄の恒例行事にしているところが多いですね。



まだまだ寒い時節ではありますが、一雨ごとに気温が上がり、日差しも徐々に暖かくなってきます。春雷がひときわ大きくなりやすい時季でもあります。八百屋さんの店先に山菜が並び始めます。旬の食材で春の訪れを味わいましょう。

春分 春分とは、地球の赤道を延長した天の赤道と太陽の通り道の黄道が交差した「黄径0度」に太陽が到達した瞬間の時期のことを言います。

昼と夜の長さがほぼ同じになり、昼がだんだん長くなり、夜が短くなります。

春分の3日前から7日間を「春の彼岸」とします。春分は「彼岸の中日」といいます。彼岸は日本独自の行事です。

雷が稲光り雷声が轟き始める時季でもあります。「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉があるように、寒さは和らぎ過ぎやすい季節になります。

桜の開花情報がかかるのもこの頃からです。



やすらぎの塔 お知らせ

3月20日は春分の日。17日が彼岸の入りですので、「やすらぎの塔」も**春彼岸の期間中、3月17日（木）～3月23日（水）は休まず営業いたします。**また、「春の合同慰霊」も4月に予定しています。詳しくはDMとホームページでお知らせします。